

令和八年度

公立高等学校入学者選抜学力検査

国語

問題用紙

〔一〕 次の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の1～5について、――線をつけた漢字の部分の読みがなを書きなさい。

- 1 めざましい進歩を遂げる。
- 2 雨が田畑を潤す。
- 3 食材に熱処理を施す。
- 4 リーダーの言葉が社員を鼓舞する。
- 5 文章全体の構造を把握する。

(二) 次の1～5について、――線をつけたカタカナの部分に当てはまる漢字を書きなさい。

- 1 物事を見る目をヤシナう。
- 2 銀行にお金をアズける。
- 3 画期的な製品がトウジヨウする。
- 4 野鳥のカンサツを趣味にする。
- 5 お礼の手紙をウソウする。

〔二〕 次の(一)～(五)の問いに答えなさい。

(一) 次の文中の「ある」と同じ品詞であるものを、あとのア～エの――線部分から一つ選び、その符号を書きなさい。

彼はある晩、夢を見た。

- ア 夜空に明るい月が輝く。
イ 彼女は大きな犬を飼っている。
ウ 来月はもつと暖かくなる。
エ 公園から元気な声が聞こえる。

(二) 次の文中の「出」と活用形が同じ動詞を、あとのア～エの――線部分から一つ選び、その符号を書きなさい。

家を出て、学校に向かう。

- ア 学校の図書室で本を読む。
イ 窓から見える景色が美しい。
ウ あつという間に時間が過ぎた。
エ 努力をすれば、目標に近づく。

(三) 次の文中の「緩和」と構成が同じ熟語を、あとのア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

店内の混雑が緩和する。

- ア 往復
- イ 海底
- ウ 司会
- エ 計測

(四) 次の文中の——線部分の様子を表すのに最も適当な慣用句を、あとのア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

彼女は他校の選手と対等の実力をもって張り合う。

- ア 肩を並べる
- イ 一目置く
- ウ 頭が上がらない
- エ ひざを打つ

(五) 次の会話文の A C に当てはまる言葉の組合せとして最も適当なものを、あとのア～カから一つ選び、その符号を書きなさい。

アキト 敬語を勉強しているんだけど、動作をする人に

対して敬意を表す敬語の種類は何かな。

ハルコ A だね。たとえば、「読む」は、「お読み

になる」となるよ。

アキト そうか。では、「食べる」は、「お食べになる」

だね。

ハルコ そうだね。だけど、同じ A でも、「食べ

る」は、「 B 」と表すこともできるね。

アキト なるほど。同じ A でも、まったく違う

形になるんだね。

ハルコ このような例は、他にもあるよ。たとえば、「来

る」がその例だね。

アキト 「来る」は、「 C 」でいいのかな。

ハルコ そのとおりだね。

- ア A 尊敬語 B いただく C いらっしゃる
- イ A 尊敬語 B 召しあがる C 参る
- ウ A 尊敬語 B 召しあがる C いらっしゃる
- エ A 謙譲語 B いただく C 参る
- オ A 謙譲語 B いただく C いらっしゃる
- カ A 謙譲語 B 召しあがる C 参る

(三) 次のAは、本居宣長の『うひ山ぶみ』についての先生の説明である。また、Bは、『うひ山ぶみ』の一部であり、Cは、Bの文章について話した二人の生徒と先生の会話である。AとCを読んで、(一)と(六)の問いに答えなさい。

A

先生 『うひ山ぶみ』は、学問を始めたばかりの人に向けて書かれたもので、要点をまとめた「総論」と、「総論」を詳しく説明した「各論」の二つで構成されています。

総論では、書物の読み方について、初心のうちには、はじめから、文の意味を全て理解しようとしてはいけないと述べた部分に「ヨ」と、書物を何回も読むことについて述べた部分に「タ」と、文献を広く見渡すことについて述べた部分に「レ」と、それぞれ記号をつけています。

Bの文章では、各論として、「ヨ」、「タ」、「レ」のそれぞれについて、詳しく説明しています。では、読みましょう。

B

〔ヨ〕初心のほどは、かたはしより文義を云々。

文義の心得がたきところを、はじめより一々に解せんとして、とどほりてすすまぬことあれば、不明ナ

聞えぬところは、まづそのままにて過すぞよき。

殊に世に難き事にしたるふしぶしをまづ

知ロウウ しらんとするは、いといとわろし。ただよく聞えたる所に心をつけて、深く味ふべき也。こはよく聞えたる事也と思ひて、なほざりに見過せば、すべてこまかなる意味もしられず、又おほく心得たがひの有りて、いつまでも其誤りをえさとらざる事有る也。

〔タ〕其末の事は、一々さとし教ふるに及ばず。

此ころをふと思ひよりてよめる歌、筆のついでに、

〔一〕 とる手火も今はなにせむ夜は明けて

阿カルクナツテ道モハツキリ見エルヨウニナツタノダカラ
ほがらほがらと道見えゆくを

〔レ〕 広くも見るべく、又云々。

文獻ヲ広く見渡シテモイ
視野ヲ広クスル

博識とかいひて、随分ひろく見るもよろしきことなれども、さては緊要の書を見ることのおのづからおろそかになる物なれば、あなたがちに広きをよきことのみもすべからず。その同じ力を、緊要の書に用ふるもよろしかるべし。又、これかれにひろく心を分くるは、たがひに相たすくこともあり、又たがひに害となることもあり。これらの子細をよくはからふべき也。

(注) 云々||引用した文のあとの部分を省略して、代わりに用いる語。しか
じか。

手火||松や竹などを束ねて火をつけ、屋外用の照明としたもの。
緊要の書||重要な書物。

C

フユキ 「ヨ」と「レ」は、筆者の述べていることが

わかりましたが、「夕」は難しかったです。こ
こは、和歌の理解が大切なのでしょうか。

先生 そうですね。「夕」では、筆者は、「書物を何

回も読むうちに、次第に自分の考えができるも
のである。」ということについて、読者に伝え
たいことを和歌に託して表現しています。

ナツコ そうか。そうすると、「I」の和歌が示して

いるのは、X ということですね。

先生 そのとおりですね。

(一) ~~~~~線部分の「とどこほり」を現代かなづかいに直し、す
べてひらがなで書きなさい。

(二) ——線部分(1)の「いといとわろし」の意味として最も適当
なものを、次のア〜エから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア たいへん良くない。
- イ それほど悪くない。
- ウ とてもつまらない。
- エ ますます興味深い。

(三) ——線部分(2)の「其誤り」について、筆者は、その誤りが起こ
るのはなぜだと述べているか。二十五字以内で書きなさい。

(四) Cの会話の X に当てはまる内容として最も適当なも

のを、次のア〜エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 最初は進むべき道がわからないが、学問を深めることで、
少しずつ来た道を振り返ることができる

イ 最初は進むべき道がわからないが、学問を深めることで、
徐々にこれから進むべき道がわかる

ウ 最初に進むべき道はわかっても、学問を深めるだけでは、
少しも進むべき道は見えてこない

エ 最初に進むべき道はわかっても、学問を深めることによ
り、かえって進むべき道がわからなくなる

(五) ——線部分(3)の「その同じ力を、緊要の書に用ふるもよろし
かるべし」とはどういうことか。四十五字以内で書きなさい。

(六) ——線部分(4)の「これらの子細をよくはからぶべき也」につい
て、筆者の考えを表したものとして最も適当なものを、次のア〜
エから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 調和を保つこと。
- イ 魅力を知ること。
- ウ 約束を守ること。
- エ 決断を下すこと。

〔四〕 次のⅠ、Ⅱの文章を読んで、(一)～(六)の問いに答えなさい。

Ⅰ 人間が歴史的・社会的存在であることから、「学ぶ」内容がある程度「与えられる」ことは避けられない。しかしながら、そのことを宿命と考える必要はない。それは所詮^{しよせん}一つの出发点でしかなく、その先にはさまざまな選択と選別、「学ぶ」側の判断の余地が潜んでいる。入口は一つのように見えても、出口はさまざまであり得る。長く生きるといふことは自ら「与えられたもの」を相対化する時間が増えることでもある。このように⁽¹⁾学校制度の中でカリキュラムに従って「勉強」し、試験を受けるといったシステムを卒業すると、何を「学ぶ」のかという問題は「学ぶ」側に跳ね返ってくる。「学ぶ」という行為には「学ぶ」側の目線が伴っており、したがって、何を「学ぶ」のかという課題の自覚化とそのあり方が問われることになる。これまで知らなかったことを知る——^{ほか}外の人々が知らなかったことを知る——ことの快感を追求するところから、何かテーマを念頭にやや持続的に何かを「学ぶ」といった態度もあるし、さらには自らの内面的な不安や疑念を解消する手がかりを求めて「学ぶ」こともまた、きわめて人間らしい所為^{しよゐ}である。このように「学ぶ」という行為には知的な個性が刻印されており、そこにこそ「学ぶ」といふことの喜びと楽しみがある。

X 個性的に「学ぶ」といふのはなかなかその現実味があまり感じられないかもしれない。それというのも、何を「学ぶ」か、どう「学ぶ」かを含め、「学ぶ」べきことはあらかじめ社会的に共有され、「学ぶ」といってもその情報の大波の中

を漂っているのが実情だからである。学校制度の次には社会的な「常識」が待ち構えている。もちろん社会的に共有された情報や知識は一種の加工品であり、作成した人々の関心や偏り、さらには利害も少なからず流入している。事実についての情報にしても、「事実についての情報とされているもの」でしかない。このことは「学ぶ」ことが事実上その社会の共有された色眼鏡をかけて物事を視^みることに近いということに他ならない。事実が無数にあり、いちいち精査している時間とコストが「学ぶ」側にないとすれば、出来合いの色眼鏡で整理された図柄を「学ぶ」ことに事実上ならざるを得ない。その上、⁽²⁾馴れた図柄はコストの節約になるばかりでなく、心理的に安心感があり、時には快感を与え、それだけになかなか変わり難いことになる。極論すれば、「見たいものを見る」ことになっていく可能性がある。ある。

こうした色眼鏡をかつてリップマンというアメリカの有名なジャーナリストは「ステレオタイプ」と呼んだ。そこでは「見たいものを見る」といった具合に人間は「社会化」されている。新聞はこの「見たいものを見る」ことで商売をしているのであって、「ステレオタイプ」に対する防衛策にはならないのみならず、それをむしろ Y する役割を果たしている。と彼は主張した。つまり、新聞を読みながら「学ぶ」ことにはその種の危うさがつきまとうというのである。現代のソーシャルメディアに見られるのも、非常に均質的な意見を持つ人々が互いに求め合うという現実である。この「見たいものを見る」といふのは選択的接触と呼ばれるが、かつての「ステレオタイ

プ」の再現とも言えよう。

プラトン以来、哲学者たちが試みてきたのは、こうした「ステレオタイプ」(俗論や世論)の支配を突き破って「真の現実」へと人々を導く可能性を説得することにあつた。リップマンが言及したプラトンの『ポリテイア』の有名な「洞窟の比喩」によれば、多くの人々(3)は鎖につながれたまま、洞窟に映る影を「真の現実」だと思ひ込んで生きている。ところがある人が自らをこの鎖から解き放ち、洞窟の外に出て太陽を目にし、「真の現実」を視野に入れる。哲学者はまさにこの洞窟から外に出て「真の現実」を目の当たりにした人間に他ならない。

(佐々木 毅「学ぶとはどういうことか」による)

(注) カリキュラム学習する内容を系統立てて配列した教育の計画。

色眼鏡＝思い込みや偏見に支配された見方。

ソーシャルメディアインターネット技術を利用し、個人が情報を発信することで形成されるさまざまな情報交流サービスの総称。

プラトン＝古代ギリシアの哲学者。

(一) 文章中の X に最もよく当てはまる言葉を、次のア～

エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア したがって イ つまり

ウ ところが エ なぜなら

(二) 文章中の Y に最もよく当てはまる言葉を、次のア～

エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 解放 イ 判断 ウ 変更 エ 補強

(三) —線部分(1)とは、どのように「勉強」することだと筆者は述べているか。四十字以内で書きなさい。

(四) —線部分(2)とは何か。具体的に述べている部分を、Iの文中から十五字以内で抜き出し、そのはじめと終わりの五字をそれぞれ書きなさい。

(五) —線部分(3)とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 人々に安心感を与える商売をしている人間は、コストの節約になることが、現実においては重要であると信じていること。

イ 見せたい情報を発信して利益を得ている人間は、人々を誘導していることに気づきつつ、その情報が現実だと信じていること。

ウ 自分の都合で情報を書き換える人間は、情報の偏りを生み出している現実には気づかず、それが正しいと信じていること。

エ 自分が見たい情報ばかり求める人間は、その情報が偏ったものであることに気づかず、現実の全てだと信じていること。

国語(四)の問題の続きは7ページにあります。

II

(六) 次のIIの文章は、Iの文章と同じ著書の一部である。~~~~線部分とはどういうことか。IとIIの文章における、「学ぶ」という行為についての筆者の考えを述べながら、百二十字以内で書きなさい。

自分に理解できないものは「ない」し、「ないに違いない」し、「ないことにする」のは、色眼鏡を通して現実を理解する「ステレオタイプ」型の思考様式の根底に潜んでいる精神的な態度である。

考えてみれば、こうした前提なり態度なりは多くの死角を自ら抱え込むのみならず、およそ「学ぶ」ことを真摯に考える態度とは正面衝突するような態度である。逆の言い方をすれば、ここには所詮「わからないことはわからない」という、ある種のどうにもならない大きな精神的な壁が横たわっている。煎じ詰めれば、「学ぶ」という行為は自分に理解できないものは「ない」、「ないに違いない」、「ないことにする」という態度に見られる横着さや怠惰、あるいは、そこから帰結する無理解の怖しさに対する直截な対決的な行為と考えられる。言い換えれば、現実の複雑な様相に対する謙虚さこそが「学ぶ」ことの根底にあるといつてよい。

(注)

煎じ詰める || 行きつくところまで論じきわめる。
直截 || まわりくどくなく、きつぱりしていること。
様相 || 有様。